

紹介者



吉田 雅俊氏  
日税ビジネスサービ  
ス  
取締役社長

# リレートーク



松井 秀文氏  
ゴールドリボン・ネットワー  
ク  
理事長

#150

## 小児がんとゴールドリボン運動

「ゴールドリボン」と聞いても、多分ご存じない方がほとんどだと思います。これは小児がん支援のための世界共通のシンボルマーク。日本での活動は3年くらい前から始まりました。

子どもは国の宝です。一人たりとも死なせてはいけない宝です。しかし、小児がんは現在、子どもの病死原因の1位。登録制度がないため、正確な数がわからないのですが、年間の罹患者は約2,500人（15歳以下）。現在でも16,000人近い子ども達が、がんと闘っています。小児がんは、大人のがんと違って、非上皮性の肉腫が多く、体の奥深く始まるため早期発見が難しく、見つかった時には、その80%が全身に広がっているといわれています。白血病、脳腫瘍、骨肉腫、網膜芽細胞腫、ユーイング肉腫等、47種もあり、現在使用可能な抗がん剤は約10種類。しかも、その開発は遅れています。近年、小児がんの治癒率は70%くらいといわれ、治る病といってもいいのかも知れませんが、約30%の子どもが亡くなっている事実があります。特に再発がんの治癒率は20%以下。その意味でも、小児がんを治る病とすることが必要です。しかし、治療研究に対しては予算も、専門医を含めたマンパワーも不足しています。

さらに、小児がん経験者の約半数は低身長、甲状腺機能障害、中枢神経障害等、多岐にわたる晩期合併症で苦しんでいます。これらの小児がん経験者のQOL（生活の質）向上や社会生活をきちんと行えるような支援も、また必要とされています。

私共のNPO法人ゴールドリボン・ネットワークは、「小児がん克服に向かって」をスローガンに「治療研究支援」「QOL向上支援」「理解促進」を目的に活動しています。設立1年半の新しい法人ですので、ご多分にもれず活動資金づくりが大きな問題です。幸いにもゴールドリボン支援自販機の提供や、商品にゴールドリボン・シールを貼って支援して下さる企業もあり、感謝の気持ちで一杯です。小児がんの子どもを救うことは、その子どもの可能性も救うことになります。そのためにも、多くの方々のご支援を得て、活動の輪を拡げていきたいと願っております。

“ご協力いただければ有難く思います。”

次回は 波多野 敬雄氏(学習院 院長) にご登場いただきます。